

| Gr   | 記載事項   |
|--|--|
| A<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・ブランド力のある農産物をPRLし、経済が豊かになる。  |
|  | ・農業の担い手を育成し、農業が盛んになる。  |
|  | ・ITを活用し、ブランド農産物の販路を全国展開できる発信基地づくり。                                   |
|  | ・白沢地区、田原地区の商店街・街並みが整備されて、徒歩や自転車で買い物などに行ける。                           |
|  | ・地産地消のねらいから、地元農産物をPRLし、販売できる場所を作る。学校と連携して、食育の点からも給食にも利用していただく。       |
|  | ・地域の特色のある食文化を守り、食文化を公開する場を作る。  |
|  | ・地域内企業の工場の視察を計画して、交流の一助とする。これまで納豆工場等で実施されました。                        |
|  | ・「河内といったら、〇〇〇」のキャッチフレーズで、地元の特産品などをアピールして誘客につなげる。                     |
|  | ・地産地消ができる集約型優良品販売施設の整備(平成26年2月より試験運行開始したデマンドタクシーを参考に地産農産物を各戸に販売)     |
|  | ・企業に協賛してもらい、地域で祭りや交流イベント(バーベキュー他)の開催                                 |
| ・ブランド力を高めて、地域住民や企業が参入していきやすいまち   |  |
| ・農業が魅力あるものにしていけるまち   |  |
| B<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・宇都宮ブランドの中でも特に、河内産が素晴らしく感じる。   |
|  | ・地域企業と住民が一体になれる行事が数多くある地域  |
|  | ・兼業農家の会社退社後の野菜ブランドのあるまち  |
|  | ・農業・工業・商業のバランスが良く取れ、ブランド力の有る農産物が上手く流通している地域                          |
|  | ・地産地消の場(道の駅、まちの駅)のまち   |
|  | ・河内ブランドをつくり全国に発進する。  |
|  | ・農業後継者の育成ができるソフト・ハード面の整ったまち  |
|  | ・産業・経済が地域特性と上手くマッチングしているまち   |
|  | ・地域就業力が程ほどに有り、販売・消費の安定したまち   |
| ・地域の農産物を使った食品工場などが数多くあるまち  |  |
| C<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・農業の魅力を知る。   |
|  | ・地域住民が企業の内容(業務内容)を知る。  |
|  | ・企業と農業経営者が互いに協力しあえるまち  |
|  | ・企業と生産者が知恵を出し合いブランド化できる工夫をする。  |
|  | ・ブランド化成功者との勉強会   |
|  | ・全国から注目される河内ブランド(地元の特産物等)のまち   |
|  | ・企業と住民との交流によるものづくりのまち  |
|  | ・農業と観光が楽しめるまち  |
|  | ・農業の担い手が育つまち   |
|  | ・新鮮な野菜等が買える横丁のあるまち(野菜横丁)   |
|  | ・河内のブランド品と特産物が販売される大型施設が確保され、人のにぎわいと地域活性化がみえる、まちづくりが継続している。          |
|  | ・将来への農業の担い手が組織的に確立され、おいしい米を中心に新鮮な農産物があふれた地域づくりになっている。                |
|  | ・地域内の遊休地と未開発地区を最大限に生かした産業づくり、ものづくり、人づくりの新しい企業が誘致され、あらたな活性化が生まれ育っている。 |
| ・現企業の再編と新規企業を参入させ、互いに活性化を計る。   |  |
| ・二つの工業用地を別の所に移動する。   |  |
| ・野菜、果物、米など美味しい物が沢山採れるので、農業の担い手を多く増やし、農業体験等を行って作物を作り、道の駅などで販売できることをやって欲しいと思います。 |  |

テーマ『産業・経済、観光』 資料提出結果【観光】  
10年後の理想とする地域の姿

| Gr   | 記載事項   |
|--|--|
| A<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・歴史のある文化財や伝統行事の継承者を育成し、素晴らしい観光地になる。  |
|  | ・地域外に向けて、文化財所有者、地域の人たち、文化財に関わる有識者、案内(解説)ボランティア等で組織する会を設ける。会が窓口になって、地域外・市外に向けて、発信、PRをする。※現在、河内地域に市の研修を終了した「文化財解説ボランティア」と「文化財調査員」がいる。解説ボランティアは、河内での需要はなく、旧市内で活動している。 |
|  | ・地域内に向けて、各自治会の祭りや伝統行事等の情報を広報紙や回覧等で周知して、他自治会の人たちにも参加して楽しんでもらう。  |
|  | ・地域内に向けて、現在行われている伝統芸能などの後継者育成に更に力を注ぐ。  |
|  | ・地域内に向けて、岡本家住宅などの有形文化財を活用して、ミニコンサート、趣味のつどい、勉強会を行う。   |
|  | ・「みんなで守ろう豊かな自然。豊かな自然は、地域の宝」一例ですが標語をかかげ自然をアピールする。   |
|  | ・屋台や天棚等の文化財、伝統行事を案内するボランティアを養成する。(人気があると思います。)   |
|  | ・解りやすい地域のマップ作りを急いで整備する。  |
|  | ・観光施設の環境が整備され、観光客が多く集まる。   |
|  | ・ITを活用し、伝統文化や施設をPRする。  |
|  | ・ITを活用し、自然環境のPR(観光客誘致)   |
|  | ・自然マップの整備(サイクリング、ウォーキング、伝統文化めぐり)をして駐車場や駐輪場の整備をする。  |
|  | ・文化・自然・観光を別個のものではなく、1つのものとして捉えて、相乗的に発展させていけるようにする。   |
|  | ・伝統文化をもっとアピールさせる。(例えば、幼稚園・小中学校等で披露したり、展示をして多くの人に興味を持っていただく機会を増やす等)   |
| B<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・地域の歴史を散策しながら農業を楽しむ観光があるまち   |
|  | ・気軽にサイクリングができるまち   |
|  | ・観光をしながら地元産の食材を楽しめるまち  |
|  | ・地域の環境(田舎の風景)や文化財を上手に利用した集客力のあるまち  |
|  | ・水と緑を主体に公園や各施設を上手く利用し、皆が楽しく集えるまち   |
|  | ・伝統文化を利用した大イベントのまちづくり  |
|  | ・観光地を整備する。   |
|  | ・地域の伝統文化(生活文化も含む)などが住民に理解され、受け継がれるまち   |
| ・田舎の風情を上手に使い、都市部の人々の興味を引くような祭りが沢山あり、多くの地域から人々が沢山集うまち               |  |
| C<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ  | ・観光大使を確保する。  |
|  | ・伝統文化の行事で交流の場を確保し、河内の魅力を伝える。   |
|  | ・伝統継承者を確保する。(語り部)  |
|  | ・自然豊かな環境を他の地区の人に知ってもらう。  |
|  | ・自然豊かな場所に新たな観光スポットをつくる。  |
|  | ・地域の伝統文化を守り、つなげるまち(お祭りなど)  |
|  | ・水・緑・景観など豊かな自然あふれるまち   |
|  | ・文化資源や観光スポットのツアーが楽しめるまち  |
|  | ・地域の伝統文化と観光がマッチしたイベントのまち   |
|  | ・かわちの文化財や伝統文化を継承する人材が豊富に育成されている。一方で観光スポットが地域内に機能的に点在し、1年中多くの観光客、人出でにぎわっている。  |
| ・豊かな自然環境を生かしたイベントを定期化させ、産業と観光が発展的に維持されている。                         |  |
| ・伝統の文化財をもっとPRして、多くの人に見てもらえるように、また、それを利用してイベント等をもっと、たくさん取り入れたほうが良い。 |  |